

平成28年度 授業改善推進プラン 調布市立(第五中)学校

【児童・生徒の学力向上を図るための調査結果の分析より】

【学力向上に関する学校経営方針】

- ア 基礎基本の定着を図るとともに一人一人の能力を伸ばすことで、思考力・判断力・表現力などの資質を育て、学んだことを生活に活かし、生涯にわたって活用できる「確かな学力」を身につけさせる。
 - イ 生徒の個性や能力に応じた指導方法・内容を取り入れる。そのために、少人数・習熟度別指導等を推進し、理数教育、英語教育等を充実する。
- 具体的方策
- 学習習慣の確立 ○反復学習の定着 ○各種検定試験に挑戦できる能力の育成 ○道德教育の充実 ○読書教育の推進
 - オリパラ教育・体力向上教育の推進 ○キャリア教育の推進 ○指導と評価の一体化の工夫

【平成28年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」に関する調査結果分析内容】

- 【国語】・知識・理解の分野に関しては学力の定着が見られるが、読解力、書く技能が不足している。
- 【社会】・学習課題を理解した上で、比較しての共通点と異なる点を見いだす力が十分ではない。
- 【数学】・問題を読み取る力、解決する力が十分でない。
- 【理科】・知識・理解、取り出す力、読み取る力は都平均以上である。技能、特に思考・判断・表現と解決する力が都平均を下回っている。
 - ・基本知識を応用し、考える・表現する力が身につけていないと考えられる。
- 【英語】・A領域は「知識理解」を除いて都の平均を上回った。B領域は「読みとる力」と「解決する力」が都の平均をそれぞれ2.6ポイント、3.7ポイント下回っており課題がある。全体の学力は都平均と同水準だった。

【授業改善の方針・目標】

【分かる授業・魅力ある授業の実践】

- ・授業改善推進プラン、調布ベーシックプラン、全国・都・市の学力調査、学習に関する意識アンケートの活用し、指導と評価の一体化を図る。
- ・平成24・25年度調布市教育委員会研究推進校の研究成果を引き続き踏まえて、指導内容の精選、指導過程や指導形態、評価方法等を工夫する。
- ・数学、英語による少人数学習集団において、生徒一人一人の習熟の程度に応じた指導の充実を図る。さらに、東京方式で実施する指導について、短いスパンでPDCAサイクルにのせ、より効果的な授業を目指す。
- ・オリパラ教育に位置づけた国際理解教育の推進に向け、外国語教育の充実を図るとともに保健体育においても主旨を踏まえ、授業の工夫改善を行う。
- ・各教科で、道德教育の推進、人権教育の推進に配慮した指導を意図的に行う。

【授業改善のための具体的な取組】

【短期的な改善策】

- 【国語】・読解力のスキルを上げるためのテキスト等を活用し、短文中で練習問題を繰り返し行う。
 - ・「聞く」「書く」力をつけるために、話し合いやスピーチの発表を行い、意見を聞き記録する機会を設ける。
 - ・主述の関係を明確にした文を書く訓練をする。
- 【社会】・身近な事例の課題解決では、意見発表の機会、小グループ内での話し合い、自分の考えをまとめたり、見直しを取り入れステップで思考判断表現の力を身につけさせる。
 - ・グラフや歴史的資料などから情報を読み取り、それを活用して問題を解く練習を繰り返し行うなどの機会を増やす。
- 【数学】・小テストや単元テストなど、自身の学力を振り返る機会を設けるとともに、反復学習を充実させ、基礎学力の定着を図る。
 - ・毎回の授業で、問題演習の時間を多く取り入れ、問題を読み取る活動に慣れさせ、その力を育成する。
- 【理科】・復習の小テスト等の反復学習を行い、基礎知識を身に付けさせる。
 - ・毎単元において問題に対し、グループで話し合う活動、説明する活動を増やすことで、自身の考えと他の考えを比較し、検討しながら課題解決する機会を設け、思考・判断・表現力を高める。
- 【英語】・より効果的な少人数・習熟度別学習集団のあり方を検証する。
 - ・音読筆写、ディクテーションを継続するとともに、英作文の添削、フィードバックを定期的を実施し、書くことへの抵抗感をなくす。
 - ・スピーキングテスト、パフォーマンステストを行い、話すことへの抵抗感をなくす。
 - ・基礎基本を定着させるために、授業にQ&A活動を取り入れる。
 - ・ペアワーク、グループワークを積極的に行い、コミュニケーション力の向上を図る。
- 【全教科】・前時の振り返り、既習事項の確認(考える基礎となる知識の確認)
 - ・学習目標、課題の提示(ねらいの明確化)
 - ・「自分の考えを書く時間」の設定(自分で考え、自分の言葉で記述する時間を設ける)
 - ・「学び、議論する時間」の設定(ペア学習、グループ活動)
 - ・「深める時間」の設定(学習の振り返り、1問1答、小テスト、本時のまとめを書かせる)

【長期的な改善策】

- 【国語】・長文の読解ができる集中力と、それを要約してまとめる力を身につけさせる。
 - ・読解や書くことの基本となる知識としての語彙量を増やしていく。
- 【社会】・実証的に学ぶ授業構成のなかで、その実証に基づく「共通点」「異なる点」を見分ける。「変化」「その原因」について説明する場面として、1コマの中に短時間でも必ず話し合い活動を入れ、「個人の考え」から「小グループ」で伝え合い、「クラス」で発表する機会を増やす。
- 【数学】・生徒の学力把握に努め、習熟度別少人数授業による指導に生かす。
 - ・既習事項を反復して学習することで、基礎学力の定着を図る。また、既習事項を用いることで、新しい問題が解決できることを実感させるとともに、問題を読み取り、既習事項を当てはめて用いる力を養う。
- 【理科】・活発な話し合い活動にさせる。半数以上の生徒が問題に対して適切な理科用語で説明できるような表現力を身に付けさせる。
- 【音楽】・意欲的な学習環境を作り出すためにも、学習リーダーを育てる。相互学習、グループ学習ができる環境作りを行う。
- 【美術】・分かりやすい説明を心がけることで生徒の意欲を高めるとともに、発想構想を豊かにするための指導を充実させ、また表現の技能を発達段階に沿って指導していく。
- 【保健】・教え合いや学び合い学習を通して、アドバイスをし合い、思考力を高める場面を増やしていく。また、リーダーを育て、生徒が主体的に学習できるように指導していく。
- 【技芸】・技術・基礎的な知識の理解を徹底し、作業に生かす。また板書や掲示物を工夫し、視覚で作業内容が理解できるようにする。
 - ・家庭:全ての領域で基礎的な知識の理解、技能の習得を図る。その上で実生活を意欲的に工夫できるように、適切な助言や技能指導を行う。
- 【英語】・すべての学年で授業略案を作成し、授業者間の共通理解を図る。
 - ・評価計画の見直し・明確化し、CAN-DOリストを作成する。
 - ・短期的な改善策を行いながら、生徒の実態を把握し、更なる改善を図る。

【取組の進行・管理, 評価方法, 時期】

4月	学力向上に関する学校経営方針を踏まえ、本年の研修内容を検討	12月	生徒教育活動及び授業評価アンケート(第2回)実施
5~7月	授業改善の方針・目標に沿って授業実践		生徒教育活動及び授業評価アンケートの検証、授業改善推進プランの修正
7月	生徒教育活動及び授業評価アンケート(第1回)実施	1~3月	授業実践
8月	生徒教育活動及び授業評価アンケートの検証、授業改善推進プランの作成	3月	授業改善推進プランの検証
9~12月	授業実践		評価基準を明確にした平成29年度教科の年間指導計画・評価計画の作成